

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100423		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム本郷 1階		
所在地	島根県松江市本郷町2-20		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームといえば郊外にあるイメージが強いですが、本郷は松江市の中心部にあり何事にも利便性の高い施設です。その中で働く私達職員は、認知症実践者リーダー研修修了者1名、認知症介護実践者研修修了者4名など認知症の基礎知識を持った職員に加え、介護福祉士の資格を有する職員も13名います。コロナも5類になり少しづつコロナ前の生活に戻りつつありますがまだ油断できない状況下、感染防止に努めながら研修等も外部研修に参加しています。法人内や事業所内での研修はまだ資料配布で行っており自己研鑽に努めています。日々のケアの中では、入居者様主体のケアを念頭に入居者様が役割を持ちながら自分らしく「普通」に暮らして頂けるような支援に努めています。地域の方々との交流の機会を持つ事はまだ様子を見ていますが外出事は再開しており、引き続き行っている近所の散歩等で笑顔になって頂ける様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人や事業所の理念と各ユニットの理念に基づき、内外の研修や日々の実践を協力し積み重ねることで利用者が自分らしく暮らせるよう支援している。広報誌「かわら版」は地域回覧を継続して事業所の取り組みを伝え地域とのつながりを大切にしている。菜園に植えたブドウは今年は不作で昨年のような賑やかな取り組みができず代わりに利用者や職員はミニ運動会を大盛り上がりで楽しむことができた。運営推進会議では令和2年から3年間のコロナ禍の活動の振り返りや事故報告書の統計を報告する取り組みをしている。管理者は来年度は敷地を活用しさらに菜園、畑を作り利用者や家族、地域と一緒に活動する目標がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とホーム理念の2つを毎朝復唱し、本人様の「幸せ」の為に実践している。各ユニットに於いて更に追求した理念を作成し指針として実践している。	各ユニットは会議で意見を出し合い作成した理念を基に活動目標を掲げ日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、美化運動として地域のゴミ拾い活動をしている。又、自治会への入会を通し回覧板や地域の諸会議へも参加させて頂き関わりを持っている。更に、かわら版を地域に配布したり夏祭りを通し地域にアピールしている。	「本郷かわら版」は民生委員に配布し自治会回覧で事業所の活動内容を伝えている。毎月、美化活動ボランティアで事業所周辺の草取りを継続し、ウエスやタオルの寄付がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の散歩等で近所の方々とのふれあいもあり、支援の様子も見て頂けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面会議とさせて頂き2か月に1回文書を作成し発送していたが、今年7月からは再開し会を開いている。	書面会議でも必ず運営推進会議の記事を「かわら版」に載せてきた。7月は対面式再開としコロナ禍3年間の事業所の感染対策や行事の工夫、感染状況など活動内容をまとめて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を送付して日頃の様子を伝えている。また、相談等発生時は随時電話やFAX、メールを利用している。	事業所の取り組みは会議報告書やたよりを送付している。相談や連絡などは随時行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や法人全体研修で知識の共有を図り、福祉の専門職として常に意識しながらの実践を心掛けている。委員会にてアンケートも実施され職員の意識付け、確認に役立っている。	研修や勉強会を行い正しい知識を共有し意識の向上に努めている。必ずアンケート結果を振り返り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や法人全体研修で学ぶ機会を持ち、知識の習得と向上に努め、虐待が発生しない様取り組んでいる。身体拘束同様、委員会にてアンケート実施をすることで職員への意識付け等に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体研修にて学ぶ機会を設けている。身体拘束・虐待防止委員会もあり、話し合いの場や勉強会の場も設けてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間を設けて丁寧にゆっくり説明させて頂いている。質問や疑問点があればその場でも又、随時受け付けさせて頂いている。改定がある場合も、都度文書にて報告し同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員も設け直接言いにくい事も伝えられる機会を設けてある。	利用者や家族が意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。家族向けのたよりは毎月担当者が写真やコメントと共に送り、面会や電話で意向を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長と職員、又、管理者と職員の個人面談を通じて意見等の確認を行ったり、随時いつでも話を聞く姿勢に努めている。	管理者は必要時現場に入り職員が意見や要望を言いやすい関係づくりを行っている。困っている事や提案は常に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、就業規則も公表しており、職員個々の能力に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加も再開し認知症実践者研修等への参加も積極的に行っている。又、法人内や事業所内での研修を行い自己研鑽を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会も再開され参加している。同業者同士の悩み等相談する機会が設けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を実施しており本人様の想いを聴き取る機会を設けている。 又、入居初期にも不安が無いように寄り添う事に力を入れ傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とも事前面談を実施しており、初期の関係構築に努めている。 又、入居初期も含め、随時お話を聞く時間も設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の様々な施設形態も視野に入れた状態で面談を行っている。他事業所との情報共有も常に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、出来るかもしれない事を見付け、一緒に行って行けるような声掛けや見守りに努めている。時には職員が教わりながら人生の先輩として敬う気持ちを忘れない様心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会もガラス越しをやめて直接対面で会っていただいている。又、毎月、近況報告として手紙を書き日頃の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントを実施してご本人の馴染みの物や人の把握に努めている。居室には慣れ親しんだ家具等を置いておられる方もある。	家族以外の来訪は現在できないが徐々に面会時間や方法などは柔軟に対応して関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の支援の中やユニット会議等を通じて入居者様間の関係を把握し、職員間で情報を共有出来る様にしている。職員が間に入る事でスムーズに関わりが持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方は、ご逝去の方である為相談支援は行っていないが、相談受付は随時可能であることは伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様主体のケアを常に考え、一人一人に寄り添い、日頃の会話や行動の中からお本人の意向や希望が汲み取れるよう努めている。	利用者の気持ちに寄り添い話しかけ、思いや意向を汲み取るように努めている。気づきはノートや日誌に記録し情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の情報シートを作成しており、生活歴や環境、入居に至るまでの経過等が把握できる様努めている。又、日々の関わりの中で会話や写真集等通じて昔話出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の「一日の過ごし方シート」を作成し、その方の日々の生活のスタイルの把握や毎日の記録としてバイタル、排泄状況、言動の内容等記入して情報の共有を図っている。又、モニタリングやアセスメントも実施しご本人の出来る事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の整理やケアの方向性について、随時ユニット内で話し合い必要に応じて会議も開き検討している。又、ご家族様にも随時新たな課題の説明を行い、今後の関わり方等説明し意見や同意を得ている。	利用者、家族からアセスメントシートを基に聞き取り、情報を共有して会議で話し合い介護計画を作成している。見直しが必要な時も家族に説明し意見を聞き、現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に会話内容、特にご本人から発せられた言葉や表情等や身体状況まで記録し全員で情報共有できるようにしている。又、個人記録内に個々の介護計画内容を明記しプランを明確にすることで統一したケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して、基本的には柔軟に対応するよう努めてはいるが出来ない時もある。医療面など、緊急的な場合はその限りではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になってからは地域に出かける機会は減っている。近隣の散歩や人気のない場所への外出で気分転換を図っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医療機関医による往診、受診等ご本人および家族様の希望に沿って適切な医療が受けられる様関係構築を図っている。又、ご家族もしくは職員で受診支援を行っており、早期発見早期治療を心掛けている。	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医や医療機関の受診支援をしている。往診体制もあり訪問看護とも連携し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々のケアの中で察した異変に対し訪問看護職にすぐ報告し助言等受けている。24時間オンコール体制もっており、いつでも指示が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を早期に作成し、医療関係者に情報提供できるようにしている。又、入院中も相談員等通じて随時情報開示を求め、状況の把握に努めている。更に、病院での対応困難な入居者様については早期退院受け入れも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書や看取りに関する指針の説明を行っており、緊急時の対応についても説明、同意を得ている。又、状況が変わった際には、再度説明を行い話し合う機会を設けている。	利用者、家族の意向を尊重し、家族や関係者と話し合いながら事業所のできる対応について確認し方針を共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はAED講習を受講しており、緊急時の対応について学んでいる。又、勉強会でも医療面についての学習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練の実施とそれに併せての勉強会も行っており日頃からの意識付けに努めている。地域においても近隣のグループホームと相互支援に関する協定書を交わし有事の際はお互い協力することになっている。	市と連携した水害対策訓練を火災に加え実施している。付近に川があるので大雨時には水害対策マニュアルを基に行政やテレビなどの情報に留意し避難できるように日頃から意識づけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時に個人情報の同意書を取り、取扱いには十分配慮している。又、入居者様への声掛け等自尊心に配慮するよう勉強会や研修も実施しているがなかなか完璧には出来ていない。	プライバシーを損ねないよう特に入浴や排泄時は羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1で会話ができるような支援に努めている。又、個別で関わる事でご本人の思いや希望が引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者様の様子や体調を確認しながら本人様のペースに合わせての支援に努めているが、まだ出来ていない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の散髪業者を活用しての散髪やカラーの実施や、馴染みの美容院に行かれたりとその方に合った身だしなみの支援を行っている。又、入浴時の洋服選び等もご本人の意思を尊重して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から嗜好の確認に努めている。又、入居者様の力に応じた役割を持って頂ける様支援している。調理や食事の準備等その日の様子を観ながら声掛けし見守っている。	各ユニットの職員は、利用者の好みや冷蔵庫の食材からその日の献立を作成し、利用者ができることを一緒に行い調理し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に毎月献立のチェックをしてもらいアドバイスをもらっている。又、個人記録にも食事量、水分量の記載をし把握に努めている。その方の状態に応じて摂取時間や食事形態等柔軟な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方に合ったブラシを利用し実施している。夕食後にはホリデントで洗浄している。一部口腔ケアが困難な方には声掛け等で促しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が出来る方においては基本トイレに座っての排泄に努めている。訴えが困難な方については、時間や行動を観察しながら随時トイレに誘導し排泄促しに努めている。	排泄チェックシートの利用や一人ひとりに合わせた声かけでトイレでの排泄に努めている。定時交換のオムツ使用者には夜間の睡眠を妨げないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内部会議等でも随所で便秘はBPSDを引き起こす原因のNO.1である事を繰り返し、トイレ誘導のタイミングや食事面への配慮、更には排便チェック表で個別把握に努め個々にあった便秘解消法を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午後からの入浴が多く、本人様の意向に対応できていない事が多い。ただ、入浴を拒否される方に於いては、決して無理強い「待たせ」事を心掛けご本人が気持ちよく入浴できる様心がけている。	シャワーチェア、リフト浴を設置しゆっくりと浴槽に入り入浴を楽しめるようにしている。毎日の入浴を楽しむ利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず居室以外でもホールのソファでも休めるようにしている。又、夜間ゆっくり休めるように照明や環境に配慮するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を写真に写し、都度複数チェックを行い誤薬のないよう努めている。薬の理解においては個々でバラツキがあり要所所で説明したり、内部勉強会等で看護師から話したりしている。服薬方法については個々にあった支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の情報(生活歴)を基にその方に合った役割や楽しみ方を見出すよう努めている。主に家事参加が生活の一部となるよう努めているが、楽しみ方については個々で違う為個別対応に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のその時の状況、天候によっては随時散歩に出かけることはしている。また、ご家族様との外出・外食も感染対策のご協力を得ながら実施している	事業所周りの散歩に随時出かけて外気に触れるようにしている。各ユニット毎の外出で花見やこいのぼり、紅葉などを見にドライブを行い利用者全員が楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内で預り金として預っているが、外出支援等には支払いが出来るようにしている。又、少額ではあるがご自分で管理されている方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が電話を掛けたいときお話していただけるよう支援している。また、暑中見舞いや年賀状等、ご家族様やご友人宛に自ら書いていただき送る支援をしている。携帯電話をお持ちの方は自由にかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では光が入りやすい作りで明るく、キッチンからの調理の音やホールのTVの音等で生活感ある中で過ごして頂いている。ホールには季節の花を飾る事もある。又、廊下の端やバルコニーに椅子やベンチを置き外やお花が見えるよう配慮している。	ソファや椅子はそれぞれゆったりと利用者が寛げる空間になっている。オープンカウンターのキッチンは明るく広く調理を一緒にしやすく音や匂いも楽しめる。季節の花や飾り物で心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、ソファ、食卓、廊下の端には椅子、バルコニーにはベンチ等を置き、集団で過ごしたり、一人で過ごしたりできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設にて準備しているが(変更可)その他については馴染の家具を置いて頂いたり、ご家族の写真を飾っておられる方もある。	家族と相談し使い慣れた馴染みのある家具を置き家族写真や置物なども飾っている人もある。クローゼットは広く中には仏壇や筆筒を収納しベット周りはすっきりと心地よく過ごせるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置してある。トイレにもわかりやすくマークをつけたり、障害物を少なくし安全に配慮している。事故対策委員による施設内点検も毎月実施している。		